医療機関のみなさまへ

発達障害の人たちをよろしくお願いします

このパンフレットは発達障害のある人の医療受診に
少しでもお役に立つことを願って作成しました。
あわせて「医療機関で働く皆様へ 発達障害のある人の
診療ハンドブック 医療のバリアフリー」（右冊子）をご覧ください。

お申し込み方法は
本文をご覧ください。

平成20年度 厚生労働省障害保健福祉推進事業（障害者自立支援調査研究プロジェクト）
分担班 「自閉症・知的障害・発達障害児者の医療機関受診支援に関する研究」

はじめに

自閉症や知的障害などの発達障害の人も他の人と同じように病気になり、医療機関に受診します。しかし、発達障害の人が受診する時に診療行為が困難な場合も少なくありません。診療が出来ないと、医療機関にとっても、患者さんやその家族にとっても、大変つらい経験になります。

自閉症などの発達障害の困難さは、時として一般の人の想像をはるかに越えています。本人や家族はとても不安な気持ちで受診しています。本人の訴えが分からない、暴れる、検査できない、触らせないなどといったスタッフから見て問題のある行動にも、必ず本人なりの理由があり、それなりの支援方法があります。ちょっとした工夫が驚くほどの効果をもたらすこともあります。

このパンフレットが、医療機関のスタッフと発達障害の人とその家族の両方が、お互いの苦労を分かり合い、よりよい関係を作り、満足できる医療が達成されるための一助となることを願っています。

発達障害には、自閉症、知的障害、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）があります

自閉症とは

自閉症は脳機能の障害です

育て方や環境によっておこるものではありません。引っ込み思案などの性格でも、「心の病気」でもありません。「ひきこもり」とも違います。

理解の仕方や感覚の感じ方が違います

自閉症は脳の働き方（メカニズム）が違い、物事の理解の仕方や感覚の感じ方が異なります。

障害がわかりにくい人もいます

特徴が典型的でなく、一見自閉症に見えない人もいます。典型的でない人も含んだ広い概念として、「自閉症スペクトラム」や「広汎性発達障害」という概念があり、100 人に1人程度の頻度と言われています。

主な特徴

1. **人とのかかわり・社会性の障害**
   - 他の人の気持ちや考えを理解することがむずかしく、人と相互的にやりとりすることが困難です。
2. **コミュニケーションの障害**
   - 人に自分の気持ちや意思を伝えることがうまくできません。言葉がないこともありますし、言葉を話していても、必要なことが伝えられません。
   - 言葉を聞いて理解することが苦手です。また、長い説明や抽象的な表現は特に苦手です。
3. **こだわりと想像力の障害**
   - いつも同じであることにこだわりがあります。また、予想と違うと混乱します。
   - 特定の興味に没頭します。
   - 同じ動きや物の扱いを繰り返します。
4. **感覚刺激（聴覚、視覚、触覚、味覚、嗅覚）に対して独特な感じ方をします**

知的障害とは

- 知的障害（精神遅滞）は、知能全体の遅れと適応行動の遅れがあります。
- ゆっくり話しかけたり、具体的に説明するなど、適切な支援が大切です。

学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）とは

- LD は、文字を読む、文字を書く、計算する能力などに特異的な落ち込みが見られます。
- ADHD は、気の散りやすさ、不注意、多動、衝動性などを特徴とする障害です。

このパンフレットのお問い合わせ・連絡先

編集・執筆スタッフ

大屋　滋　（旭中央病院脳神経外科医師・千葉県自閉症協会）
村松　陽子（よこはま発達クリニック・京都市児童福祉センター　児童精神科医師）
伊藤　政之（日本大学松戸歯学部・県立佐原病院　特殊歯科　歯科医師）
坂井　聡　（香川大学教育学部　准教授）
堀江まゆみ（白梅学園大学教授）

【発達障害のある人の医療受診支援のための研究班事務局】
白梅学園大学堀江まゆみ研究室
〒187-8570 東京都小平市小川町 1－830
FAX：042-344-1889
Mail：info-iryo@shiraume.ac.jp

本パンフレットは、平成２０年度厚労省障害保健福祉推進事業（障害者自立支援調査研究プロジェクト）「発達障害者の地域生活における法的支援・医療受診支援・地域トラブル支援に向けた発達障害理解啓発・研修プログラムの開発」（主任：堀江まゆみ）　分担研究班「発達障害児者の医療機関受診支援に関する研究」（大屋 滋、村松陽子、伊藤政之、坂井 聡）により作成した。

スムーズな診療のために

1 見通しが持てるように

今から何をするのか、いつ終わるのか、終わったら何があるのか、などの見通しを伝えると安心できます［①②］。

2 目で見てわかるように

ことばを聞いて理解するのは苦手です。写真・絵・実物などで、今からすることなどを視覚的にわかるように伝えます［③④］。

3 本人からのコミュニケーション

自分の意志をうまく表現できません。選択肢を示したり、視覚的に表現できる方法を使います［⑤⑥］。

4 感覚への配慮

感覚が過敏であったり、鈍感であったり、特定の感覚に強い苦痛を感じることがあります。刺激をやわらげる工夫を考慮しましょう［⑦］。

5 場所、空間への配慮

刺激が少ない静かな場所、気になる物が目に入らないようにするなどの工夫をしてみましょう。特に待ち時間に落ち着かないときは、静かな場所を用意しましょう。

6 動機づけ

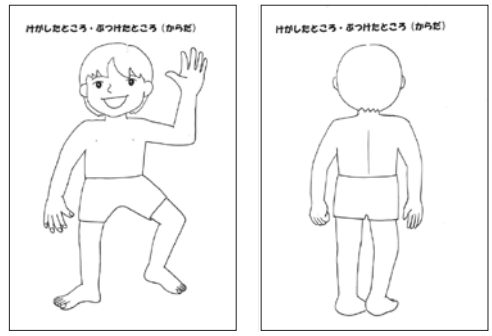
何のために病院に行くのか理解ができそうな人には、その人にわかるように説明します。どうしても分からない人には、診察のあとでお菓子など好きな物や好きな活動を用意して診療が終わったらお楽しみがあることを知らせておくことも一つの方法です［⑧］。

①タイムタイマーやタイムログで残り時間を示す

②治療の順番を写真と絵と文字で示す

③「足はここにおいてください」

④「ねる」のカードを手に横になる



⑤体のどの部分が痛いのかを表現してもらうシート

⑥痛みの目盛り

⑦聴覚過敏のある子ども用のイヤーマフ

⑧病院に行くのはどうしてかを示した絵

「発達障害のある人の医療受診支援」のためのパンフや冊子、グッズと問い合わせ先

◎冊子「発達障害のある人の診療ハンドブック　医療のバリアフリー」
本パンフの内容がさらに詳細に解説してあります（Ａ４版・７２ページ）
ぜひあわせてお読みください。

◎パンフ「発達障害のある人をよろしくお願いします」
医療機関配布用の啓発パンフ（このパンフレットのことです）

◎絵カード「診療用絵カード」（あすく製作）
このパンフで紹介した絵カードです。他にも種類があります。

◎グッズセット「医療受診・学校検診のための支援グッズ」
冊子やパンフで紹介した支援グッズなどがセットになっています。

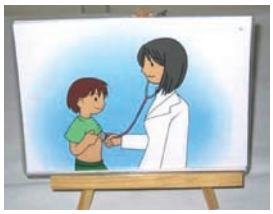
◎ＤＶＤ「医療受診・学校検診のための支援グッズ」（解説冊子入り）
グッズセットの使い方を紹介したＤＶＤです。

以上の冊子・パンフ・グッズの詳細や問い合わせは右のＨＰをご覧ください。NPO法人 PandA-J（http://www.panda-j.com）

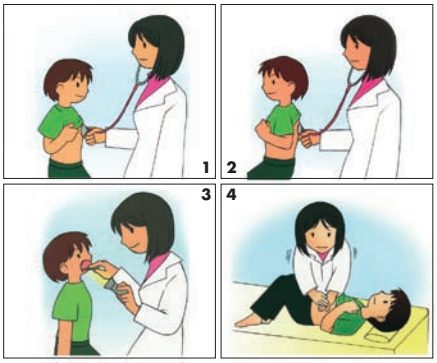
場面に合わせた工夫の例 どのような工夫が有効かは人によって違いますので、ここにあげた

1 聴診

- 診察前に担当医師の写真を見せる
- 始める前に診察の流れを視覚的（絵カード・写真・実演）に示し、短い言葉で説明する
- 場面と対比させて、その都度、絵カードなどを見せながら診察する
- 聴診器を見せて、抵抗があるようなら、人形や人で実演してから聴診器を当てる



絵カードの示し方の例
（写真立てを利用）



小児科・内科診察の絵カード「医療用絵カード」（あすく発行）

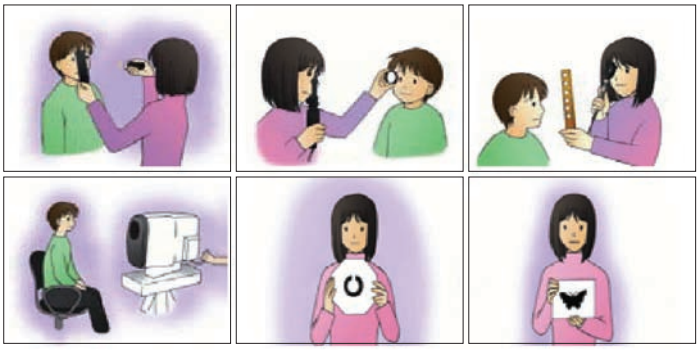
絵カードを使っての診察①

絵カードを使っての診察②

絵カードを使っての診察③

2 視力検査

- あらかじめ検査室を見学する
- 事前に手順を写真、絵、ビデオなどで説明する
- ランドルト環の練習する
- ランドルト環の意味が理解できない場合は、ひらがな、カタカナ、動物の絵を利用した視力検査表を利用する
- めがねを嫌がる場合は、片目を手で押さえるようにする
- 人が多くて集中できない場合は少人数の時に行う



眼科診察の絵カード「医療用絵カード」（あすく発行）

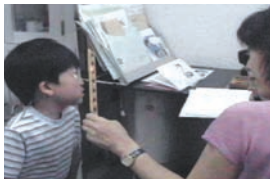
①待合い室で説明

②診察前に確認

③眼球の動きを診る

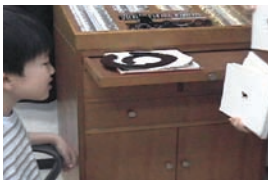
3 CT・MRI

- あらかじめ検査室を見学する
- 検査の流れを絵や写真、文字を使って説明する
- 事前に検査の流れが絵・文字・写真などで書かれたものを渡し、家で学習してもらう
- 残り時間を視覚的に示す



④屈折検査の説明

⑤屈折検査の実施



⑥視力検査

CTの流れを絵と文字で示す

4 心電図

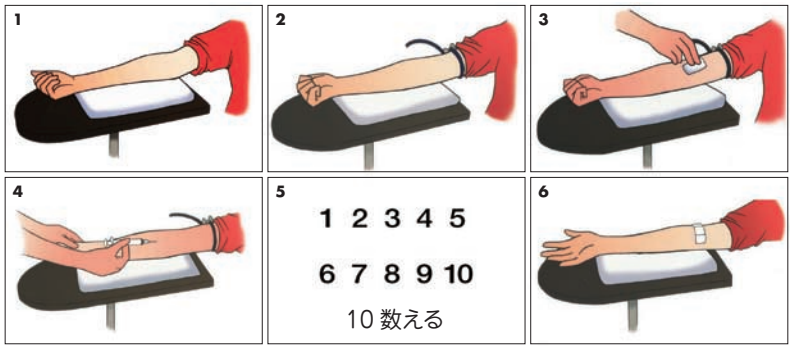
- あらかじめ検査室を見学する
- 心電図や流れを絵や写真、文字を使って説明する

ライトタイマーで時間の見通しを示す

心電図の練習用の吸盤や洗濯ばさみ

5 採血

- 採血があることを受診前に文字・絵・写真などで知らせておく
- 採血を嫌がる子どもには、ごほうびなどを用意し、知らせておく
- 採血の流れを理解して見通しが持てるように、絵カードや文字などで示す
- 本人の目の前で他の人がやっているのを見てもらったり、ビデオなどで採血の様子を見せておく
- 痛みを嫌がる場合は、局麻テープも試してみる
- 血管に針が入ったら、10 数えるなどしていつ終わるのか見通しが持てるようにする
- できるだけ本人が自分で納得するまで待ち、強く押さえつけることはできるだけ避ける



採血「医療用絵カード」（あすく発行）

事前に絵カードを見せて説明

絵カードを見せながら行う

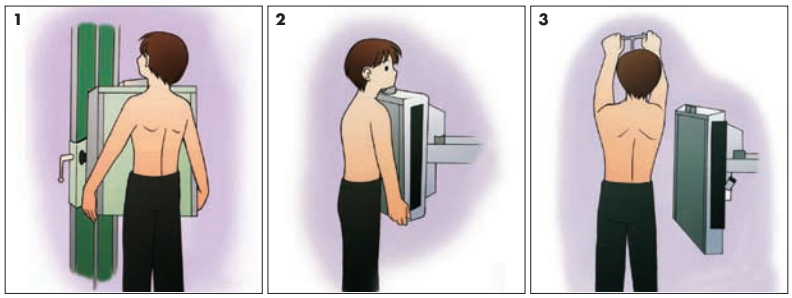
6 脳波

- 検査の流れを絵・写真・文字などで説明する
- 検査室を見学する
- 他の人が検査を受けている様子や実際に使う器具や器械を見せておく
- 予行演習をする（ごほうびまで含めて）
- 電極の装着時は、鏡を見せて本人に様子がわかるようにする
- 一回で成功しない場合、無理せず何回か繰り返しやってみる

絵カードを見せながら電極をつける

7 レントゲン

- 検査の流れを絵や写真を利用して視覚的に伝える
- あらかじめ検査室を見学する
- 機械への恐怖心を減らすために事前に練習をしておく
- 機械の冷たさや触覚を嫌がる場合や服を脱ぐのを嫌がる場合は、無地のＴシャツを着てそのまま撮影する
- 暗い部屋が恐い場合は、部屋を可能な範囲で明るくする
- じっとしていられないなどの場合は、終了時間を示す（かずを数え、数字のカードを見せる）



胸部レントゲン「医療用絵カード 検査編」（あすく発行）

自宅で事前に練習

- 箱を抱えて 1 分ぐらい待つ
- 息をとめて 5 秒ぐらい待つ
- 他の人がモデルをして見せる

歯科治療時の工夫

診療室の環境は、音や振動、光といった色々な刺激があります。歯科治療を受けるときは、徐々に慣れていくよう治療への導入（トレーニング）を行っていきます。従来より系統的脱感作法を用いて治療への導入が行われてきました。時には、刺激を減弱させるような方法も採られます。また、診療中の双方向のコミュニケーションも大切にします。

1 トレーニングの場面

TSD（Tell-Show-Do）法があります。

Tell：器具や手順を説明する

Show：器具や方法を見せる

Do：触れさせたり、実際に行う

というように、弱い刺激から強い刺激へ、遠いところから近いところへ、と徐々に変化させながら慣れていってもらいます。

誰でも見通しがもてれば嫌な刺激にも耐えやすくなります。目で見て理解することが得意な特性を生かし、視覚的にわかりやすい方法を用いると、指示に応じやすい場合があります。

また、ランゲージパル※の録音機能は、視覚的な支援とともに器具の音に慣れる練習にも使用できます。

2 治療の場面

誰でも今されていることや次に起こることがわかっていれば、安心して治療が受け入れられます。また、後どれくらいで終わるのかがわかれば、我慢することができます。

診療中の音や光の刺激を抑制するために、耳栓（イヤプラグ）やサングラスを使うこともあります。

3 コミュニケーション

治療中のコミュニケーションにも工夫する事ができます。治療中の痛みをコミュニケーションカードや VOCA※で表現できます。

※ランゲージパル：カードを通すと音声が再生される装置
※VOCA：音声出力型コミュニケーションエイド

タービンの音、水圧　ラバーダム防湿　まぶしい光　開口の維持、開口器　サクションの吸引、音

TSD 法によるトレーニング

かかりつけ医で使用されているスケジュール

手の置き場所を示す（手袋つきエプロン）

ランゲージパル※を用いた歯科治療への導入

何をしているのか、マイ鏡

術式ボード

文字表記のスケジュール

イヤプラグ

歯磨きの順序を示します

どれだけの回数かを示す

光をさえぎるサングラス

コミュニケーションカード

VOCA※を使って痛みを伝える

予診票

医療機関用

この予診票は医療機関の皆様が患者様に記入してもらうためにお使い下さい。

名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

この予診票は、発達障害のある方の受診をスムーズに行うためのものです。わかる範囲でかまいませんので、できるだけ具体的に記入してください。

ご本人が嫌がること、苦手なこと、怖がることなどに○をつけてください。

体を触られること　耳を触られること　頭を触られること　喉を見られること（舌圧子）
ベッドに寝ること　待つこと　大きな声　小さい子どもの泣き声　たくさん話しかけられること
人が多いところ　暗いところ　初めての場所　初めての人　白衣　注射　口を開けること
口に触られること　仰向けに寝ること　大きな機械音　掃除機などの吸引音
その他（　　）

ご本人が好きなもの・ことをお書きください（おもちゃ、キャラクター、食べ物、趣味など何でもかまいません。特に「ごほうび」「暇つぶし」「気持ちの切り替え」として使えそうなことはお書きください）

ご本人にどのように伝えたらわかりやすいですか?
（本人が理解できる方法に○を、限定されていたり不確実なものに△をつけてください）

実物を見せる　写真を見せる　絵を見せる　文字で書いて見せる　やって見せる
指さし　日常よく使う短いことばで伝える　少し長い文でも理解できる
工夫していることがありましたらお書き下さい（　　）

ご本人は、他の人に自分の意思や状態をどのような方法で伝えることができますか?

話しことばでいろいろなことを自由に伝えられる　ことばを話すが伝えられることは限られている
みぶり　文字　絵カード　写真カード　実物を示す　手をひっぱる
VOCA（種類：　　）　その他（　　）

ご本人が理解できる時間の示し方に○をつけてください。

時計（ アナログ　デジタル ）　キッチンタイマー　数を数える：（　　）くらいわかる
その他（　　）

これまでに経験したことのある診療、検査に○をつけてください。
困難だったものには△をつけてください。

聴診　触診　喉を見る　耳鼻科診察　聴力検査　耳垢とり　眼科診察　視力検査
点眼　採血　点滴　予防注射　脳波　レントゲン　CT　MRI　心電図
超音波検査　傷の縫合　歯科　入院　手術　その他（　　）

ご本人が飲むことのできる薬の剤型に○をつけてください。

錠剤　カプセル　粉薬　シロップ
＊薬の飲ませ方で工夫していることや注意することがありましたらお書きください。

受診にあたって心配なこと、伝えておきたいことがあればお書きください。

受診のためのサポートシート

保護者用

このサポートシートに保護者の方がご記入の上、担当の医師・看護師等に渡してください。

名前　　呼び名　　年齢　　性別　男　女

障害名　　障害者手帳

下記の囲みに右記の記入例を参考にしてご記入下さい

	記入例
いやなことは	●突然体をさわられること●大きな声●「だめ」と言われるとパニックになる
好きなことは	●電車が大好き、アイスが大好物●ふわふわしたものがお気に入り
本人が理解できる伝え方は	●実物を見せるとわかる●写真や絵を見せるとわかる●文字で書くとわかる●やって見せると理解する●短いことば（単語）ならわかる
見通しのもたせ方は	●絵や写真で理解●事前に場所や器具を見ておくと安心する●家で練習しておくと理解しやすい●10数えることで終わりがわかる●タイマーで理解する
本人からの表現方法は	●言葉は話せないが、写真を指差して伝える　わかってなくても「はい」と返事をする●自分の意見を表現できる
待ち時間は	●ほとんど待てない●絵を描きながらなら待てる●個室など静かなところでないといられない
飲める薬は	●粉薬は飲めるが、錠剤は飲めない●味のない粉薬や水薬なら飲み物に混ぜて飲ませられる
パニックになってしまったら	●しばらくそっとして待つ●声をかけられると余計に混乱する
その他、気をつけなければならないこと	●多動でじっとしていられない●前に嫌なことがあったので診察台に座るのを拒否する●急かされると混乱する・ゆっくり時間をかけるとできる

地方自治体、医師会・歯科医師会、支援団体、当事者などが作成した患者情報カード・サポート手帳がある場合は、一緒に活用してください。